

## (2) 「幼稚園教育の機能」を生かした指導の工夫（3・4・5歳児－参考－）

東京都教育委員会が設置する「就学前教育開発委員会」では、平成26年度に「就学前教育施設における特別支援教育の推進－「幼稚園教育の機能」を生かした指導の工夫－」の主題を設定し、1年間の研究を行いました。

本研究は、就学前教育施設における特別支援教育の推進に資することを目的とし、特別な支援が必要な幼児が在籍するクラスにおける保育者の援助の一覧及び指導例等を開発し、指導資料としてまとめました。

ここでは、その骨子となる部分を抜粋して掲載します。一部で「幼稚園教育の機能」という表現を用いていますが、幼保連携型認定こども園、保育所等、全ての就学前教育施設において、特別支援教育を推進する上での参考にしてください。

＜本研究で使用する用語について＞

- ・就学前教育施設…保育所、幼稚園、こども園等、小学校就学前の保育・教育施設
- ・対象児…障害の診断の有無にかかわらず、特別な支援を必要とする幼児及び児童
- ・保育者…就学前教育施設における、保育士及び幼稚園教諭（保育教諭を含む）
- ・支援者…対象児に対する個別の支援のための教職員等
- ・クラス…学級、クラスのこと ・支援…主に対象児に対する特性等に応じた援助

### ア 「幼稚園教育の機能」とは

本研究では、幼稚園教育要領解説における記述を基に、「幼稚園教育の機能」及び「特別支援教育における援助」を考える視点を次のように捉えました。

#### ◆ 適切な環境の下での集団生活を通して、 幼児一人一人に応じた指導を行う機能

＜援助のポイント例＞

- ・好きなこと、得意なことを生かす
- ・様々な遊び（活動）を用意して経験を広げる
- ・できなかったことができるようになる喜びを味わわせる

#### ◆ 友達をはじめ様々な人々との出会いを通して、 家庭では味わうことのできない多様な体験をさせる機能

＜援助のポイント例＞

- ・心地よい人との関わりや様々な感情を経験させる
- ・それぞれの特性を認め合えるようにする
- ・様々な場面（小集団、大集団、個別支援、一斉活動等）を生かす
- ・一人一人をかけがえのない存在として、クラス経営を行う

#### 援助を考える視点

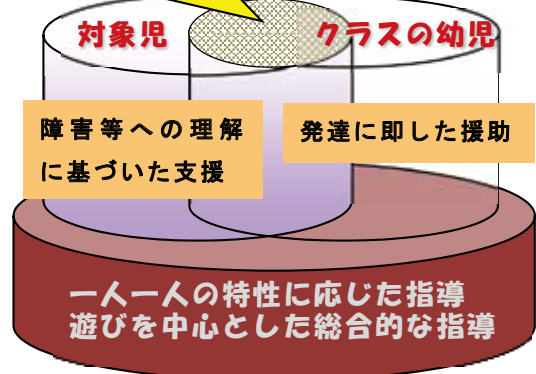
- ◎ 対象児の好きなこと、得意なことを生かす
- ◎ 対象児と周囲の幼児との関わりを意識する

\* 上記の内容は、幼稚園以外の就学前教育施設においても共通である。

幼児期の教育と特別支援教育とは、一人一人の特性に応じた指導という点で共通です。加えて、幼児期の教育の特長である遊びを中心とした総合的な指導が、日々の教育活動の基盤となります。

就学前教育施設においては対象児の障害等への理解に基づいた支援を行うと同時に、一緒に生活するクラスの幼児と共に育つことに対する援助が必要です。そのためには、一人一人の良さを生かすとともに、周囲の幼児の発達を踏まえた集団への援助など、対象児と周囲の幼児との関わりを意識した援助を意図的に行うことが重要です。

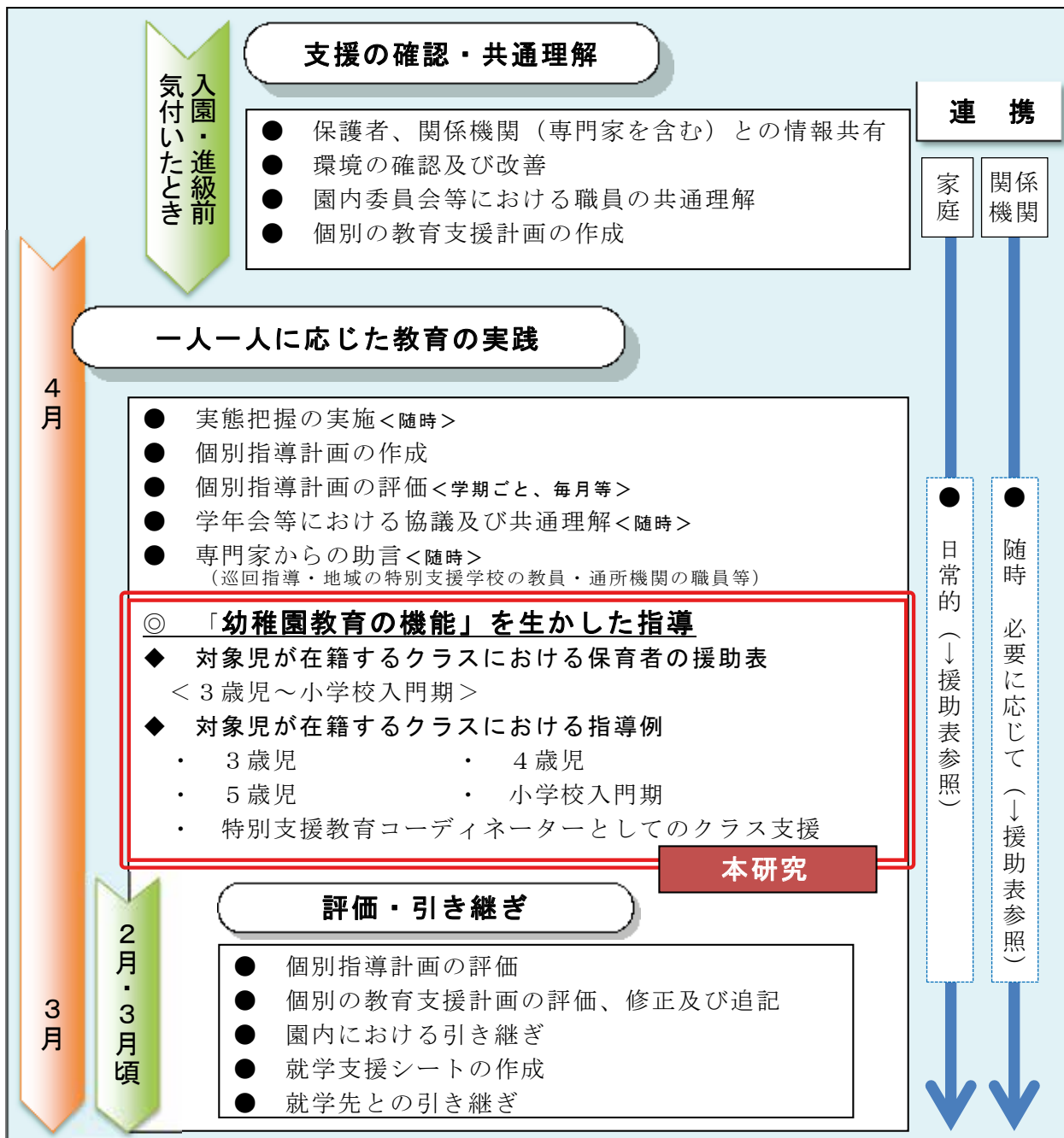
- 好きなこと、得意なことを生かす援助
- 対象児と周囲の幼児との関わりを意識した援助



＜「幼稚園教育の機能」を生かした指導＞

## イ 対象児に対する指導の流れ

特別支援教育は、園全体で組織的に推進していく必要があります。併せて、担任を中心とした対象児に関わる保育者は、対象児に対する障害等への理解に基づいた計画的な支援、家庭及び専門家や関係機関との連携、特別支援教育コーディネーターをはじめ園内の教職員との積極的な連携などを、年間にわたり意識的に行う必要があります。



## ウ 対象児が在籍するクラスにおける保育者の援助

日常の教育活動において特別支援教育を推進するために、本研究で捉えた内容を視点として、保育者の援助を一覧にまとめました。

なお、「対象児への支援（例）」の欄は、一人の対象児を想定して具体的な支援を掲載しています。

【対象児が在籍するクラスにおける保育者の援助表】

視点	3歳児Ⅰ期（4月～5月） 保育者に親しみをもち、徐々に安心して過ごせるようになっていく時期	3歳児Ⅱ期（6月～9月上旬） まわりに友達がいる中で、興味をもったことをしてみる時期
<p>幼児との関わりに関する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者との触れ合いを通して、安心して生活や遊びを楽しむ。</li> <li>・保育者や友達と一緒に過ごす。</li> <li>・誕生会や季節の行事などの集会があることを知り、保育者と一緒に参加する。</li> <li>・皆で過ごすために必要な約束を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の動きをまねたり、同じように遊んだりすることを喜ぶ。</li> <li>・生活や遊びの中で、自分の思いを動きや言葉で保育者や友達に伝えようとする。</li> <li>・友達と関わって遊ぶ中で、保育者の仲介の下、相手に自分とは違う思いがあることを感じる。</li> <li>・砂や水などで遊び、開放感を味わう。</li> <li>・生活や友達との関わりの中で、良いことと悪いことに気付く。</li> <li>・皆で過ごすために必要な約束や、簡単な遊びのルールを知る。</li> </ul>
<p>対象児が在籍する集団への援助</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の幼児に愛情をもって接し、スキンシップや一緒に遊ぶことを通じて、保育者の存在を身近に感じ、信頼感が生まれるようにする。</li> <li>・ありのままの姿やその思いを丁寧に温かく受け入れ、安心して過ごせる雰囲気をつくる。</li> <li>・安心して過ごせるように、園生活の流れがあまり変わらないようにする。</li> <li>・所持品の始末や登降園時の身支度など、手順が多いことは分かりやすく示す。（絵や写真を見せる、手順を簡単な言葉に表すなど）</li> <li>・気に入った場所や遊具に関わり、安心して過ごせるよう、コーナー作りをしたり家庭で親しんでいる遊具を多めに用意しておいたりする。</li> <li>・興味や関心に合わせて、遊びに使う物が自由に使えるよう、分かりやすい表示の工夫や遊具、用具の種類や数量に配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の興味を捉え、楽しめるような遊具や材料を用意し、一人一人がしたいことに取り組みする時間や場、遊具の数を確保する。</li> <li>・対象児が刺激を与えたり受けたりしやすい幼児も出てくるので、互いに気にならないようについ立てなどを使って仕切る、保育者の位置を考慮するなど工夫する。</li> <li>・友達と同じ物を扱えるよう、遊具の数を確保する。</li> <li>・遊びの中で思いが通らないなどの場面では、気持ちを受け止めて代弁したり、気分転換を図ったりする。その中で、関わりに必要な簡単な言葉や、生活の決まりなどを知らせる。</li> <li>・砂や水などと関わり、開放感を味わって遊ぶことで、自分の思いを出しやすくする。</li> <li>・水遊びなど初めて経験することは、手順や約束を絵や写真を使って分かりやすく示す。</li> </ul>
<p>◎対象児への支援者共通 ○担任・支援者との連携 ☆支援者 ●通年</p>	<p>◎登園時は玄関で迎え入れ、保育室まで一緒に移動し身支度を行うことを繰り返す中で、自分の保育室やロッカーの場所が分かったり、自分を支えてくれる保育者や支援者の顔や名前を覚えたりできるようにする。</p> <p>◎家庭で親しんでいる遊具や、対象児が気に入っている様子の遊具を用意しておき、安心して過ごせるようにする。</p> <p>◎●初めて取り組む活動や集会など、新しいことには不安を示すことも予想される。部分的に参加する、安心できる場所から参加するなど、対象児が無理のない範囲で参加できる方法を考える。</p> <p>&lt;支援者との連携&gt;</p> <p>○担任は学級全体が安定することを大切に。対象児の安定のために、支援者や園内の職員に対象児に関わってもらい、連絡を密にして園生活での適切な実態把握と支援方法を共有する。</p> <p>◎●専門機関との連携で得た情報や支援方法を必要に応じて伝え、共通に支援できるようにする。</p> <p>◎個別指導計画に基づき、支援方法を共通にする。</p>	<p>◎飼育物、絵本コーナーなど、対象児が気に入っている物や場に関わりながら、安心して過ごせるようにする。</p> <p>◎砂、泥、水などの遊びに喜んで取り組む様子が見られる場合は、一緒に遊びながら気持ちの開放や安定を図る。対象児の状況（感覚過敏があるなど）により取り組もうとしない場合は無理強いないで、別の遊びに誘う、他児の様子と一緒に見るなどする。</p> <p>◎降園前は集まって過ごす、食事のときは座るなど、園生活の流れや簡単な決まりが徐々に分かるように、一緒に取り組み、できたことを喜ぶ。</p> <p>&lt;支援者との連携&gt;</p> <p>◎担任が対象児との関係を深めるため、遊びの場面では支援者と役割を交代するなど工夫する。</p> <p>◎●対象児の状況（好きなこと、苦手なこと、小さな出来事など）を様々な教職員が捉え、共通理解する。それをもとに、対象児の関心を広げたり、自分の保育室で過ごせる時間を増やしたりできるように、支援方法を調整する。</p>
<p>●専門機関との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保育観察を依頼し、集団生活での対象児の特性に応じた支援方法を具体的に検討する。</li> <li>・個別の教育支援計画、個別指導計画作成にあたり、3年間の見直しや支援方法への助言を受ける。</li> <li>・通所機関で、入園前の対象児の様子や集団生活への期待などを聞き、指導計画に生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●集団生活での変容や困難さを共有し、その時期の対象児に応じた支援方法を確認する。</li> <li>●通所機関がある場合は、見学や園での保育観察を通して情報交換し、支援に生かす。</li> <li>●発達や行動面で配慮が必要と思われる幼児について、実態把握の仕方や支援方法、保護者との連携等について相談する。</li> </ul>
<p>対象児の保護者との連携</p>	<p>&lt;入園、進級前&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・面談や体験入園等を通し、園や職員に親しみをもてるようにする。成育歴や家庭での対応、園への願いや要望等を聞き、基礎資料を作成する。</li> <li>・実際に環境を見てもらい、改善や工夫の必要な点、家庭での過ごし方などについて共通理解し、準備する。</li> </ul> <p>&lt;入園、進級後&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園生活の様子を具体的に知らせ、安心感につなげる。家庭での様子を聞き、環境の変化による家庭での変容等を保護者と確かめ、支援に反映させる。</li> <li>・基礎資料と園での様子を基に、個別の教育支援計画及び個別指導計画を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡ノートなど、日々の連絡方法を確認する。</li> <li>・対象児の園での様子を肯定的に伝え、安心感につなげるとともに、家庭での様子を聞き、保護者の気持ちを受け止めたり、園での対応に生かしたりする。</li> </ul>

3歳児Ⅲ期（9月中旬～10月） 自分のしたい遊びの中で、安心して思いや動きを出していく時期	3歳児Ⅳ期（11月～12月） したい遊びに取り組む中で、友達と関わる楽しさを知っていく時期	3歳児Ⅴ期（1月～3月） 自分でできることに取り組みながら、大きくなった喜びを感じていく時期
<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ場にいる友達や保育者に関わって遊ぶ楽しさや、一緒にいる心地よさを感じる。</li> <li>・自分の思いを自分なりの方法で相手に伝えようとして、相手の思いを感じたりする。</li> <li>・友達や異年齢児の遊びに関心をもち、仲間に入ったと一緒に動いたりして楽しむ。</li> <li>・園の様々な行事に参加して楽しさを感じる。</li> <li>・簡単なルールが分かり、皆と一緒に遊ぶことを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者や友達と同じ遊びや生活を楽しむ。</li> <li>・友達と同じことがしたいという気持ちが高まり、一緒に遊ぼうとする。</li> <li>・自分の気持ちや困っていること、してほしいことなどを、保育者に自分なりの言葉や方法で伝えようとする。</li> <li>・行事を通して異年齢の幼児と触れ合い、楽しさを感じたり、4歳児、5歳児に対する憧れを感じたりする。</li> <li>・保育者や友達と簡単なルールのある遊びを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者や友達のしている遊びに興味をもち、自分も関わりながら遊ぶ。</li> <li>・一緒に遊びたい友達と同じ場で遊ぶ中で、自分なりの動きを出す。</li> <li>・自分の思っていることやしたいことなどを言葉や動きで表しながら遊ぶ。</li> <li>・保育者に励まされながら様々なことに取り組み、できたことを喜び、大きくなったことを感じる。</li> <li>・生活や安全に必要な簡単な決まりが分かる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の思いや見立てを受け止めたり、様々な遊び方を知らせたりして、遊びを楽しめるようにする。</li> <li>・一緒にいたい友達が出てくる時期なので、やりとりを仲介し、自分と相手が違う思いをもっていることを知る機会にする。思いをうまく表現できない姿も予想される。言葉だけではなく、表情や動きなど全身で表現している幼児の思いを丁寧を受け止め、一人一人に応じた援助をする。</li> <li>・運動会のリズム表現や親子種目などは、対象児も興味をもって取り組めそうな内容や、無理なく参加ができそうな内容を取り入れる。</li> <li>・運動会に向けた取組等を通して、一人一人の動きや表現を、クラスの中で十分に認めていく。</li> <li>・皆で行う活動を楽しみながら取り組む中で、皆で動くときの約束や方法（一列で並ぶ、順番を待つなど）が身に付くように働き掛ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒にいたい友達と関わるように、コーナーや遊びの場の配置を工夫する。</li> <li>・お面、マントなど、同じ物を身に付けて遊べるようにし、幼児同士が“一緒に遊んでいる”という気持ちをもつことができるようにする。</li> <li>・幼児が同じ場で遊んでいる場面では、「〇〇ちゃんと同じ物を持っているのね」など言葉を掛け、対象児や周囲にいる幼児が“友達と一緒にいることが楽しい”と感じられるようにする。</li> <li>・対象児なりに参加できそうな簡単なルールのある鬼遊びなどを取り入れていく。その中で、どの幼児も、保育者や友達と一緒に動いたり関わったりしながら遊ぶ楽しさを感じられるようにする。</li> <li>・友達との関わりが増えてくる時期であるため、それぞれの幼児が思いを表せるように仲介する。状況を捉えて、対象児の表現の仕方や思いを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児が自分から取り組んでみようとする姿やできるようになったことを認めていく。対象児の姿を認めることで、周囲の幼児が対象児を自然に受け止めるようにする。</li> <li>・発表会などは、対象児が興味のあることや参加しやすいことを取り入れて構成し、クラス全員が自分らしさを出して取り組めるようにする。</li> <li>・基本的な生活習慣の状況を確認し、一人一人の取組を認めて自信につなげるとともに、必要な部分では援助をしながら身に付くようにする。</li> <li>・4歳児の保育室に行ったり、学年全体で過ごしたりする機会を設定し、進級への期待を高める。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>☆リズム表現やかけっこなどは、事前に支援者と一緒に音楽を聞いたり動いたりして個別に取り組むことにより、皆の中でも安心して取り組めるようにする。</li> <li>◎運動会に向けた活動では、皆と一緒に回数を調整し、対象児にとって必要なことが経験できるようにする。</li> <li>◎皆と一緒に活動する機会が増えることに伴い、対象児の友達への関心も広がっていくことが予想される。友達との心地よい関わりをもてるように仲介したり、対象児が無理せずできる関わり方を知らせたりする。</li> </ul> <p><b>&lt;支援者との連携&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎対象児と周囲の幼児、双方の関わり方や感じ方の実態を把握し、幼児同士の関わりでそれぞれの成長に期待できること、配慮すべきことを明らかにし、共通理解を図る。</li> <li>◎運動会等大きな行事に関しては、対象児の成長にとって必要な経験を明確にし、練習や当日の参加の仕方への配慮などを共通にして進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎対象児と同じ遊びに興味をもっている幼児や対象児の姿を受け入れる姿が見られる幼児と関わるように、仲介したり一緒に遊んだりする。</li> <li>◎コミュニケーションがうまくとれないことでのトラブルが予想されるので、対象児が自分なりのサインや表情、知っている言葉などで表せるように支援する。</li> <li>◎集団で行う遊びでは、対象児なりにルールを受け入れて取り組めるように、一緒に動いたり言葉を添えたりする。</li> </ul> <p><b>&lt;支援者との連携&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆対象児が、できるだけ幼児同士の関わりを経験できるように、クラスの友達と関わるきっかけをつくる、支援者と対象児の距離に配慮する、などを担任と連携しながら行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎集会、生活発表会、修了式などの行事では、対象児とともに事前に設定された場を見ておく、練習ではその日に取り組み内容を伝えておくなど、安心して取り組めるようにする。</li> <li>◎発表会では、対象児の好きな遊びや動き、得意なことなどを取り入れる。また、気の合う友達と同じ役にする、待ち時間に飽きない工夫をする等配慮し、対象児が無理なく安心して取り組めるようにする。</li> <li>◎進級後を想定して、基本的な生活習慣を再確認し、できていることが定着するようにする。</li> </ul> <p><b>&lt;支援者との連携&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎お別れ会の準備など年少組として取り組む活動や、皆で取り組む活動が増えてくる。対象児の全体活動への参加の仕方を把握し、支援者が個別に取り組む方を伝えたり共に動いたりしながら、できる部分に無理なく参加できるようにする。</li> <li>◎行事に関して、対象児の様々な状況を想定し、担任と支援者の動き方や対象児の無理のない参加の仕方を確認しながら進める。</li> <li>◎4歳児の保育室に行く、学年全体で過ごすなどの際に、対象児が安心できる場所や友達を把握する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会などの行事に向けて、対象児の様子及び園や保護者の意向を伝え、対象児の特性に応じた支援方法について助言を受ける。</li> <li>●育児に不安を感じている保護者が、園内で専門家と話したり助言を受けたりできるよう、相談体制を整えておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児の変容や課題を共有し、進級を視野に入れた見通しがもてるように助言を受ける。</li> <li>●対象児の保護者が専門家に相談できるように体制を整えておき、状況に応じて機会を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現活動や儀式的な行事への、対象児の特性に応じた支援方法や参加の仕方などに対する助言を受ける。</li> <li>・進級時の環境や支援方法など、配慮することや引継ぎ事項などを協議し、明確にする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児の園での様子を伝えながら、行事に向けての取組や当日の参加の仕方、支援の方法を話し合いながら進める。また、対象児なりの取組を十分に認め、共に喜び合えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの幼児との関わりが増える時期である。園での友達との関わり様子を具体的に伝えるとともに、家庭での様子を聞き、考慮して支援を考える。</li> <li>・面談などの機会を通して、成長や支援方法などを確認する。3学期の見通しを伝え、保護者の希望や不安を聞くなど、進級を視野に入れて話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の願いを受け止めつつ、経験させたいこと、今大切にしたいことを伝え、共通理解を図り、それを基にして行事等に取り組む。</li> <li>・進級後の生活する環境と一緒に見る機会をつくり、保護者の願いや不安、要望などを聞き、改善すべき点を明確にして新年度に備える。</li> </ul>

特別支援教育の推進

視点	4歳児Ⅰ期（4月～5月） 保育者をよりどころにして新しい場や生活に慣れ、思いを表しながら遊んだり生活したりする時期	4歳児Ⅱ期（6月～9月上旬） クラスの活動で自分なりに動いたり同じ動きをしたりすることを楽しむようになる時期
<b>人との関わりに関する 幼児の姿の把握</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者や友達に親しみをもって遊んだり生活したりする。</li> <li>・気の合う友達と同じ遊びを楽しむ。</li> <li>・思ったことや感じたことを表情、態度、言葉などで自分なりに表現する。</li> <li>・クラスの皆と一緒に遊んだり過ごしたりすることを楽しいと感じる。</li> <li>・園生活に必要な決まりがあることや、「ありがとう」「ごめんね」など友達との関わりに必要な言葉があることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け入れてくれる友達に自分の思いや感じたことを伝えようとする。</li> <li>・思い通りにならないときに保育者に思いを受け止めてもらい、我慢したり気持ちを切り替えたりする。</li> <li>・友達と同じものを身に付けたり、一緒に動いたりする楽しさを感じる。</li> <li>・皆で取り組む遊びや活動に喜んで参加し、友達に親しみをもつ。</li> <li>・ルールを守ると楽しく遊べることが分かる。</li> </ul>
<b>対象児が在籍する集団への援助</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児のありのままの姿を受け止め、安心して自分を出せる雰囲気をつくる。</li> <li>・一人一人の名前を意識的に呼ぶことや、誕生写真の掲示などを通して、友達に関心をもてるようにする。</li> <li>・生活の流れや活動の手順が変わることで不安にならないよう、しばらくは生活の基本的な流れを変えないように配慮する。</li> <li>・家庭や3歳時にしていた遊びができる環境を用意し、一人一人の遊びの場を確保することで安心して過ごせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者や他児のしていることが見えるような場作りなどを行い、友達のしていることを知らせたり遊びながら感じ取れるようにしたりする。また、友達と同じことができるように材料を十分に用意する。</li> <li>・好きな遊具や遊び、クラス全体の活動の様子から、保育者が対象児と周囲の幼児との接点を見出し、関わるきっかけをつくる。</li> <li>・対象児が好きなことを遊びの中に取り入れ、関心をもった幼児と一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにする。</li> </ul>
<b>◎対象児への支援（例） ○担任・支援者共通 ○担任・支援者との連携 ☆支援者 ●通年</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ロッカーや所持品の置き場所は、分かりやすく大きなマークや図で示す。</li> <li>◎トイレ・園庭などの場所や身支度・食事の準備など生活の流れは、3歳からの経験を踏まえて写真カードを作成する。行動する際にカードを見せ、次の行動の手掛かりになるようにする。</li> <li>◎対象児の好きなことを一緒に繰り返しながら、保育者への安心感がもてるようにする。</li> <li>◎進級で環境が変わるため、家庭や3歳時に使っていた指示や絵カード、遊具などを用意し、安心して過ごせるようにする。</li> <li><b>&lt;支援者との連携&gt;</b> ☆人があまり変化しないように、共に行動するのは主に支援者とする。担任はクラス全体の安定に配慮する。</li> <li>◎●対象児の状況（好きなこと、苦手なこと、小さな出来事など）を様々な教職員が捉え、共通理解する。互いに感じたことを率直に伝え、支援方法を調整する。</li> <li>◎●行事に関して、対象児の様々な状況を想定し、担任と支援者の動き方や対象児の無理のない参加の仕方を確認しながら進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎行動する際に場所の写真カードや活動の絵カードを見せ、次の行動の手掛かりにする。</li> <li>◎身支度・昼食準備などの生活の流れは、流れが分かるように写真カードや絵カードを作成し、一つ一つ確認する。</li> <li>◎対象児が安定しているときに、好きなことを一緒にしながら、関係づくりをする。</li> <li><b>&lt;支援者との連携&gt;</b> ○対象児の興味や技能面などの状況に応じながら、友達や場、遊具への関心を広げられるよう、共通理解を図る。</li> <li>◎●専門機関との連携で得た情報や支援方法を必要に応じて伝え、誰もが共通に支援できるようにする。</li> </ul>
<b>●専門機関との連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保育観察を依頼し、集団生活での対象児の特性に応じた支援方法を具体的に検討する。</li> <li>・個別の支援計画、個別指導計画作成にあたり、対象児の実態に基づいた2年間の見通しや、支援方法への助言を受ける。</li> <li>・通所機関で、入園前の対象児の様子や集団生活への期待などを聞き、指導計画に生かす。</li> <li>●対象児及び育児に不安を感じている保護者が、園内で専門家と話したり助言を受けたりできるよう、相談体制を整えておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●集団生活での変容や困難さを共有し、その時期の対象児に応じた支援の方法を確認する。</li> <li>●通所機関がある場合は、必要に応じて連絡を取り、見学に行ったり保育を観察してもらったりしながら、情報を交換し、支援に生かしていく。</li> <li>●発達や行動面で配慮が必要と思われる幼児について相談し、実態把握の仕方や支援の方法、保護者との連携の回り方について助言を受ける。</li> </ul>
<b>対象児の保護者との連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>&lt;入園、進級前&gt;</b> ・面談や体験入園等を通し、園や職員に親しみをもてるようにする。成育歴や家庭での対応、園への願いや要望等を聞き、基礎資料を作成する。</li> <li>・実際に保育環境を見てもらい、改善や工夫の必要な点、家庭での過ごし方で準備する点について共通理解し、入園、進級をめどに準備を進める。</li> <li><b>&lt;入園、進級後&gt;</b> ・園生活の様子を具体的に知らせ、安心感につなげる。家庭での様子や環境の変化による変容等を保護者と確かめ、支援に反映させる。</li> <li>・基礎資料と園での様子を基に、個別の教育支援計画及び個別指導計画を作成する。</li> <li>・日々の連絡方法を確認する。（連絡ノートなど）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児の園での様子を、良さを中心に伝えながら、安心感につなげる。また、状況や必要に応じて、困難に感じている場面や課題を共有する。</li> <li>・家庭での様子や保護者の気持ちを受け止めたり、園での対応に生かしたりする。</li> </ul>

4 歳児Ⅲ期（9月中旬～10月） 友達との関わりを楽しみながら、自分の動きや思いを出して遊ぶようになる時期	4 歳児Ⅳ期（11月～12月） 遊びや生活の中で、クラスの友達とみんな活動する楽しさを味わう時期	4 歳児Ⅴ期（1月～3月） クラスの友達といろいろな活動をする中で、クラスのつながりを感じて遊びや生活を進める時期
<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びの中で思いや考えを出し合いながら、友達との関わりを楽しむ。</li> <li>友達との遊びの中で、思うようにならないことを経験し、相手にも思いや考えがあることに気付く。</li> <li>皆の中で、伸び伸びと自分を出して遊ぶ。</li> <li>クラスの皆と一緒にルールのある遊びをして遊ぶ楽しさを味わう。</li> <li>年長児と一緒に行事に参加して、親しみや憧れを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と一緒に遊びの場をつくり、イメージを出し合いながら遊ぶ。</li> <li>友達の動きに関心をもち、その動きに合わせて応じたりして動く楽しさを感じる。</li> <li>友達との遊びの中で自分の思ったことを言葉や動きに表し、それを相手に受け止めてもらえた喜びを感じる。</li> <li>保育者の言うことを受け止めて、行動しようとする。</li> <li>友達と生活する中で決まりの大切さを感じ、自分なりに守ろうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の前で自分の思ったことを表現し、受け止めてもらえるうれしさを感じる。</li> <li>行事やクラスの活動の中で力を発揮したことを認められ、満足感や自信をもつ。</li> <li>友達と一緒に遊びや仕事を楽しみながら、やり遂げようとする。</li> <li>クラスの皆と一緒に活動する中で、満足感やクラスとしてのつながりを感じる。</li> <li>簡単なルールをつくらせたり、ルールを守ったりして、友達と一緒に遊びを楽しむ。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と一緒に楽しんでいる姿に共感し、気持ちを保育者が代弁したり関わり方のモデルを示したりする。</li> <li>全体で行うルールのある遊びは、発達や実態を踏まえ全体が理解しやすいものを設定する。また、対象児の実態に応じて参加の仕方に配慮し、部分的でも一緒に取り組めるようにする。</li> <li>クラスの皆と一緒に体を動かす心地よさを感じられるようにする。</li> <li>クラスの幼児の対象児との関わり方や感じ方について実態を把握し、対象児を含め、幼児同士の関わりの中で育てたいこと、クラスとして育てたいことを明確にして援助する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びや生活の中で起きる対象児への疑問や感情は、ありのままに保育者が受け止める。同時に、対象児の気持ちや行動を細やかに周囲の幼児に伝え、保育者が対象児も周囲の幼児もクラスの一員として大切に思っていることを感じ取れるようにする。</li> <li>保育者が対象児の言動を肯定的に受け止め、意識的に周囲の幼児に知らせる。</li> <li>生活グループなどを編成する際には、対象児との関係性を踏まえ、互いに心地よく過ごせるように配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表会などは、対象児の興味・関心や、参加しやすさを考慮して構成し、クラスの誰もがその子らしさを出して取り組めるようにする。</li> <li>対象児が参加できない場面があるときには、対象児なりの取り組みの経過や頑張っていることを周囲の幼児に伝え、気持ちがつながるように配慮する。</li> <li>対象児の好きなことに周囲の幼児が参加する機会をつくり、簡単な役割をもって一緒に楽しむことを通して、対象児への理解を広げられるようにする。</li> <li>遊びや生活の中で、対象児がルールに沿って動けなかったり、参加できなかったりするときには参加できる方法を周囲の幼児と一緒に考えていく機会を設ける。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎好きな遊びの中で歩いたり走ったりする機会を多くもち、体を動かす楽しさを感じられるようにする。</li> <li>◎園やクラス全体で取り組む活動が多くなってくるので、気分転換できる時間や場所を用意する。</li> <li>○運動会で使用する曲は、あらかじめ保育室で流したり、好きな遊びでも開けるようにしたりして、対象児が慣れるようにする。</li> <li><b>&lt;支援者との連携&gt;</b></li> <li>◎運動会などの行事では、対象児にとって必要な経験を明確にし、練習や当日の参加の仕方への配慮などを共通にして進める。</li> <li>○3歳時よりも、「できた」と感じられるように競技内容や参加方法を配慮していく。</li> <li>○園やクラスで取り組む活動では、皆と一緒に行う回数の調整や待ち時間を工夫し、対象児にとって必要な経験ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎友達をしている遊び（楽器遊び、踊りなど）に視線を向けているときに、「楽しいね」「〇ちゃんが踊っているね」など言葉を添えていく。音楽に合わせて保育者も同じように行動しながら、表情や言葉で楽しさを伝えていく。</li> <li><b>&lt;支援者との連携&gt;</b></li> <li>◎できるだけ幼児同士の関わりを経験できるように、対象児との距離や支援の仕方に配慮する。</li> <li>◎クラスの活動や集会では、事前に対象児と一緒に場を見たり、内容を伝えたりして安心できるようにする。また、幼児同士の関わりにより不安定になったときは、落ち着いて過ごせる場所や時間を確保し、気持ちの切り替えができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎写真カードを使って、自分の行きたい場所を指差したり、ハンドサインを用いて意思を示したりする機会を大切にします。</li> <li>◎独特の言い回しや表現が見られた場合は、分かりやすい表現で代弁し、言葉を獲得するきっかけにとともに、他児に思いや状況が伝わるようにする。</li> <li>◎取り組み始めた遊びを基盤にしながら、遊びの中で、様々な玩具や道具に触れたり、いろいろなイメージの世界を楽しんだりして、経験を広げていけるようにする。</li> <li><b>&lt;支援者との連携&gt;</b></li> <li>○表現活動では、特性を生かせるように参加の仕方を工夫する。また、安心できる幼児と手をつないだり一緒に声を出したりして、一緒に参加して楽しめたことを十分に認めていく。</li> <li>◎課題活動が増えてくるため、全体活動への参加の実態を把握し、個別にやり方を伝えたり共に動いたりしながら、無理なく参加できることから進める。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会など行事への参加の仕方について、対象児の様子及び園や保護者の意向を伝え、特性に応じた支援方法について助言を受ける。</li> <li>・集団の中で周囲の幼児が感じていることを受け止め、対象児の特性や良さを活かした指導方法について助言を受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児の変容や課題を共有し、進級を視野に入れた見通しがもてるように助言を受ける。</li> <li>・全体的に気の合う友達との仲が深まる時期である。保育観察を通じて、対象児のペースを優先するのか、友達や集団へのつながりを重視するのかなど、支援に向けた具体的な助言を受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現活動や儀式的な行事への、対象児の特性に応じた支援方法や、参加の仕方などに対する助言を受ける。</li> <li>・進級時の環境や支援方法など、配慮することや引継ぎ事項などを協議し、明確にする。</li> <li>・対象児や周囲の幼児への1年間の支援や変容を振り返り、就学までに予想されることや必要なことを協議し、見通しをもって次年度を迎えられるようにする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児の園での様子を伝えながら、行事に向けての取り組みや当日の参加の仕方や援助の方法を話し合いながら進めていく。対象児なりの取り組みを十分に認め、共に喜べるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの幼児が対象児に関心をもって関わる姿が多くなるため、他児からの関わりをどのように感じているか、家庭での様子を聞きながら、園での支援を考えていく。</li> <li>・面談などの機会を通して、成長や支援方法、課題などを確認する。3学期の見通しを伝え、保護者の希望や不安を聞くなど、進級を視野に入れた話し合いをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス全体での活動や課題活動が多くなる。保護者の願いを受け止めるとともに、対象児に経験させたいこと、今大切にしたい姿を伝え、共通理解のもとに行事などに取り組んでいく。</li> <li>・進級後の生活する環境と一緒に見る機会をつくり、保護者の願いや不安、要望などを聞き、改善の必要なことや今後の手だてについて話し合う。</li> </ul>

特別支援教育の推進

視点	5歳児Ⅰ期（4月～5月） 新しい環境の中で、自分たちなりに遊びや生活を進めていこうとする時期	5歳児Ⅱ期（6月～9月上旬） 友達とのつながりを深め、思いを伝えながら遊びを進める時期	5歳児Ⅲ期（9月中旬～10月） 皆で行う活動を楽しむ中で、友達のよさに気づき、様々な友達への親しみを広げる時期
<b>人との関わり の 姿の 把握</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年長になったことを喜び合い、友達と一緒に遊ぶ楽しさや友達とのつながりを感じる。</li> <li>友達の考えを聞いたり、自分の考えや発見などを話したりして、伝えるうれしさを感じる。</li> <li>うまくいかないことを通して、友達の考えや提案に気づき、受け止めようとする。</li> <li>友達と一緒に最後まで活動する喜びを味わう。</li> <li>新しい生活の中での決まりの必要性を感じ、保育者や友達と一緒につくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と遊びを進める中で、イメージが共通になっていく楽しさを感じる。</li> <li>相手に話を聞いてもらい、思いが受け止められたうれしさを感じる。</li> <li>友達に共感したり、自分の気持ちを伝えたりする。</li> <li>自分とは違う友達の思いや考えを受け入れようとする。</li> <li>園生活の決まりやしてはいけないことの意味や大切さが分かり、自分たちで知らせ合ったり確認したりして守ろうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と話し合いながら、自分たちで遊びを進めていく。</li> <li>自分の力を発揮し、友達のよさに気付いたり認めたりしながら遊ぶ。</li> <li>自分の行動の結果を、自分なりに考える。</li> <li>クラスや同年齢の友達、保育者と一緒に、目的に向かって役割を感じながら活動を進め、気持ちを合わせる心地よさややり遂げた満足感を味わう。</li> <li>自分の考えと相手の考えの違いに気づき、受け入れようとする。</li> <li>身近な人（高齢者、年下の子供、地域の人など）との関わりを通して、相手を思う気持ちをもつ。</li> </ul>
<b>対象児が在籍する 集団への援助</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進級に伴い、担任の交代や環境の変化等により対象児が不安定になりやすい。対象児・クラスの幼児共に、安定して生活できるようにする。</li> <li>対象児に関心を持ち、そばにいたり関わったりする幼児の言動を共感的に受け止め、周囲の幼児に伝えることで、対象児への関心を広げる。</li> <li>4月からの新入児や、今まで対象児との関わりが多くなかった幼児に対して、対象児の好きなこと、苦手なこと、頑張っていることなどを、きっかけを見つけてさりげなく伝える。</li> <li>周囲の幼児が対象児に対して、自分の思いを伝えたり必要なときには注意したりできるようにする。また、互いの行動や気持ちの仲介をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当番活動など、グループの友達と一緒に取り組む活動の中で、対象児が同じ場にいたり部分的に参加したりできるように方向付ける。少しでもできたことを保育者も喜び、周囲の幼児も一緒にできたことをうれしく思えるようにする。</li> <li>対象児とのトラブルの場面では、必要に応じて保育者が間に入り、周囲の幼児にとって負担になり過ぎないようにする。また、保育者が対象児の思いをきちんと受け止めて対応するモデルになり、周囲の幼児が対象児を誤解したままでは終わらないようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象児が得意なことや好きなことを活動内容に取り入れ、対象児の意欲が高まるようにする。また、周囲の幼児が対象児の様子に気付けるように保育者が言葉を掛ける。</li> <li>対象児の苦手なことは、頑張っていることとしてさりげなく伝え、どの幼児にとっても結果だけではなく、取り組み過程を大事にすることを価値付けていく。また、誰もが困ったときには助けをもらえることの大切さを、意識付ける。</li> <li>運動的な遊びなど、結果が見えやすい活動が多くなることで、葛藤が予想される。幼児が本音で話し合える雰囲気や機会をつくる。話し合いの過程で、対象児なりの取組を認められるよう方向付け、うまくいく方法を皆で考えて実行するなど、一緒に乗り越えていく体験にする。</li> </ul>
<b>◎担任・支援者共通 ○担任者との連携 ☆支援者 ●通年</b>	<p>◎毎朝玄関で迎えて一緒に保育室へ行き、身支度などが安定して行えるようにする。</p> <p>◎写真や絵を用いて、1日の流れや活動を早めに知らせ、見直しをもてるようにする。</p> <p>◎対象児のしたいことを一緒にいながら、新しい環境で安心できる遊びや場を把握し、安心して生活できるようにする。</p> <p>◎一斉活動での経験（遊び、素材など）を、好きな遊びの中に取り入れることで、対象児の関わられることを探るとともに、周囲の幼児と関わるきっかけにする。</p> <p><b>&lt;支援者との連携&gt;</b></p> <p>◎対象児の生活が安定するために、支援者や園内の職員にも対象児に関わってもらい、連絡を密にして進級後の実態を共有する。</p> <p>◎前年度の指導の経過を、資料などをもとに確認し、進級時の支援方法を共有する。</p> <p>◎●専門機関との連携で得た情報や支援方法を必要に応じて伝え、共通に支援できるようにする。</p> <p>◎●感じたことや気付いたことを率直に伝え合い、支援方法を調整しながら進める。</p>	<p>◎場所の写真カードや活動の絵カードをより活用し、対象児が自分の意思を表し、周囲に伝える機会を増やしていく。</p> <p>◎対象児が選択したり自分なりに工夫したりして表現できるよう、様々な遊びや素材などに触れられるようにする。また、対象児の考えが周囲の幼児に伝わったり、遊びの刺激になったりするように働き掛ける。</p> <p>◎全体活動への参加が難しい場合は、クールダウンの場所を決めておく。その中から行きたい場所を自分で選択する機会を大切に、対象児が意思を表すきっかけをつくる。</p> <p>◎友達との関わりの中で、受け応えの仕方を具体的な言葉にして知らせる。</p> <p><b>&lt;支援者との連携&gt;</b></p> <p>◎小グループでの課題活動が多くなってくる。話し合いの場面、活動場面それぞれでの対象児の参加の状況を細かく観察し、今経験させること、少しずつ慣れるようにすることなどを明確にする。また、活動に参加しやすくする方法を工夫する。</p>	<p>◎学年の取組の中で対象児が参加できることは、できるだけ周囲の幼児との関わりで行動できるようにする。周囲の幼児に声掛けや手をつなぐタイミングなどを知らせ、繰り返し取り組み、できた喜びを一緒に感じられるようにする。</p> <p>◎行事に向かう中で、対象児の参加しやすい状況では、できるだけ見守る役割をとり、全体への指示や行動に対する対象児の実態を把握する。</p> <p>◎係活動は、対象児の特性を生かした内容にし、対象児の行動や気持ちを支え、意欲をもって取り組めるようにする。また、同じ係の幼児が対象児の取組に気付いて認められるように、周囲の幼児との関わりを促していく。</p> <p><b>&lt;支援者との連携&gt;</b></p> <p>◎難しい活動は内容を細分化し、そばについて少しずつできるように支援し、できた喜びに共感する。</p>
<b>●専門機関との連携</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保育観察を依頼し、対象児の特性に応じた5歳児の集団での支援方法を検討する。</li> <li>●個別指導計画作成にあたり、対象児の実態に基づき、就学を視野に入れた1年間の見直しや、支援方法への助言を受ける。</li> <li>●通所機関から就学への見解などを聞き、指導計画に生かす。</li> <li>●対象児の保護者及び育児に不安を感じている保護者が、園内で専門家と相談できるよう、体制を整えておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●通所機関がある場合は、必要に応じて連絡を取り、見学に行ったり保育を観察してもらったりしながら、情報を交換し、支援に生かす。</li> <li>●就学を視野に入れて、発達バランスや集団生活の中で特に気を付けて把握しておくこと及び支援方法などについて助言を受ける。</li> <li>●配慮が必要と思われる幼児について、現在の状態や年長の1年間で特に配慮することや、具体的な支援方法、保護者との連携の回り方などについて助言を受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●運動会などの行事への参加の仕方について、園や保護者の意向を伝え、対象児の特性に応じた支援方法について助言を受ける。</li> <li>●対象児の就学に向けて、就学までの手続きや相談機関などに関する情報提供を依頼する。就学に向けた保護者との連携のポイントについて助言を受ける。</li> </ul>
<b>対象児の保護者との連携</b>	<p><b>&lt;進級前&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●前年度に作成した個別の教育支援計画、個別指導計画を基に、対象児の成長や課題、願いなどについて共通理解を図り、手直し及び今年度の支援の見直しを共有する。</li> <li>●進級後の環境を見てもらい、改善や工夫の必要な点について進級をめどに準備する。</li> </ul> <p><b>&lt;進級後&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●連絡を密にして担任の変更など保護者の不安を受け止め、関係づくりをする。環境の変化による変容等、家庭での様子を聞くとともに、この1年の期待や願いを共有し、具体的な支援や個別指導計画等に反映させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対象児の園での様子を、小さな変容を共に喜ぶ姿勢で伝える。5歳児として課題活動が増えていく中で予想される困難と、それに応じた支援方法について伝え、保護者が見直しや安心感をもてるようにする。</li> <li>●家庭での様子や保護者の願いなどを聞き、具体的な支援方法について、保護者の考えも生かしながら検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●5歳児にとっての行事のもつ意味や取り組み方を知らせ、その中で対象児にとって何を大切にしていけるかを話し合い、共通理解を図る。前年度までの経験を生かし、当日の参加の仕方についても共に考えていく。</li> <li>●練習の様子などを参観してもらい、具体的な場面を題材に話し合い、理解を図る。対象児なりの方法で頑張っており組んでいることを十分に認め、共に喜べるようにする。</li> <li>●就学に向けての保護者の考えや願いを聞き、具体的な就学先の決定や手続きなどについて話し合い、共有する。</li> </ul>

<p><b>5歳児Ⅳ期（11月～12月）</b> 共通の目的に向かって、工夫や協力、分担などをしながら取り組み、達成感を味わう時期</p>	<p><b>5歳児Ⅴ期（1月～3月）</b> 自分たちで遊びや生活を進める中で、互いの良さを生かし合い、充実感を味わう時期</p>	<p><b>小学校入門期（第1学年4月～7月）</b> 小学校生活に期待をもち、新しい環境の中で安心して楽しく生活する時期</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と考えを出し合って工夫することで、遊びがより面白くなることを十分に味わう。</li> <li>・グループの友達と共通の目的に向けて遊ぶ中で、一緒に進めていく楽しさや、やり遂げた満足感を味わう。</li> <li>・自分の考えと相手の考えの違いに気付き、折り合いを付けて進めようとする。</li> <li>・友達の良さに気付いたり認めたりしながら、遊びを楽しむ。</li> <li>・相手の立場に立って、考えたり行動したりしようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスや学年の友達と皆でする楽しさが分かり、友達との連帯感を感じながら、自分の力を発揮する。</li> <li>・自分たちで遊びや生活を進める充実感を味わう。</li> <li>・自分の感じたことや考えたことを友達に分かるように伝え、友達の話聞いて受け止める。</li> <li>・友達の得意な面や良さに気付き、生かし合って遊ぼうとする。</li> <li>・自分のことを認めてもらって経験を通して、自信をもって行動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい環境に慣れ、安心して生活や遊びを楽しむ。</li> <li>・新しいクラスの友達に関心をもち、友達ができることの喜びを感じる。</li> <li>・気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。</li> <li>・世話をしてくれる上の学年の児童に対して、親しみの気持ちをもって接する中で、一年生としての自覚をもつ。</li> <li>・一年生になったことの喜びを感じ、皆で過ごすために必要な約束（チャイム、自分の席につく など）を知る。</li> <li>・約束や決まりを守り、皆で使う物や場所、施設を大切に使う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・関わりながら対象児を理解し気持ちを寄せていけるように、どの幼児にも対象児と関わる機会をつくる。</li> <li>・対象児に関わる一人一人の行動を具体的に認めて周囲に知らせ、どんなときにどのように接していくとよいかが分かるようにする。</li> <li>・様々な場面で、対象児を含めて手助けしたり教えたりし合う機会を大切に。そのことで相手が喜んだり、できたりしたことを共に喜ぶ気持ちを大切に。困ったときには、誰もが助けてもらうことができる関係を価値付ける。</li> <li>・対象児のペースでできることもあるので、友達にとって本当に必要な手助けかどうかを共に考えるなど、双方にとっての視点を幼児なりにもてるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの良さを感じて言葉にしたり、助け合おうとしたりする姿や、対象児を理解し関わっている幼児の姿を十分に認めて、価値付ける。全体にも知らせ、周囲の幼児が自分も同じようにしてみようと思えるようにする。</li> <li>・発表会や修了式など、締めくくりに課題活動がある。これまで経験してきたことや対象児の得意なことを生かして、一人一人の持ち味や力を十分に発揮できるようにする。</li> <li>・対象児の参加の仕方については、本人の思いと周囲の幼児の考えを生かしながら、皆で取り組んだ達成感ももてるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学に伴い環境の変化が大きく、対象児が不安定になりやすい。対象児・クラスの児童共に、安定して生活できるようにし、対象児の気持ちをクラス全体で受け止める機会をもつ。</li> <li>・トラブルの場面では、教師が早めに間に入り、対象児の思いをきちんと受け止めるモデルになる。また、周囲の児童に対して、対象児の思いを伝えることで、対象児が誤解されたまま終わらないようにする。</li> <li>・縦割り活動などで関わる他学年の児童に対して、対象児の特性に応じた接し方を伝える。他学年の児童の接し方を1年生がモデルにできるように働き掛ける。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎協同的な活動では、対象児が好みそうな内容のグループに所属できるようにし、対象児の様子や気持ちを周囲に伝える。</li> <li>◎グループの幼児と作ったものに興味をもてるようにし、遊びの経験を広げる。また、係の幼児からの関わり（声掛け、ハンドサインなど）で、その場に応じた行動を取る経験にする。</li> <li>◎幼児同士の会話や行動の中で、対象児にとって分かりにくいことを把握し、個別に知らせたり、皆が分かりやすくなるよう視覚化したりする。</li> <li>◎周囲の幼児が対象児の特性を生かせる役割に気付くように方向付け、対象児を仲間として受け止める言動を十分に認める。</li> <li>&lt;支援者との連携&gt;</li> <li>◎グループ活動の中で、周囲の幼児の対象児との関わり方や受け止め方を把握し、仲介や支援の方法を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎クラスでの活動の際に、対象児が担任に注目できるように個別に促したり、指示を端的に示したりする。対象児が担任からの指示や周囲の行動を感じ取ることをきっかけにして、行動できるようにする。</li> <li>◎あらかじめ対象児の得意なことを生かせるよう見通しをもった上で、周囲の幼児の発想を取り入れ、一緒に考えてグループ活動を実現していく。</li> <li>◎話し合い活動では、対象児の考えを周囲に伝え（対象児が自分で言えるような支援、保育者が代弁する支援など）、仲間の一員としての意識を相互にもてるようにする。</li> <li>&lt;支援者との連携&gt;</li> <li>◎大きな行事で対象児のもつ良さや力が発揮されるように、参加の仕方に配慮する。活動の経過の中で、対象児の様子に応じて支援方法や参加の仕方などを調整していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎できるだけ多くのコミュニケーションをとり、対象児との信頼関係を築く。</li> <li>◎対象児の特性と友達との関係性に応じた座席に配慮する。</li> <li>◎教室で迎え、朝の身支度がスムーズに行えるようにする。</li> <li>◎1日の活動の流れをあらかじめ伝え、安心して生活できるようにする。</li> <li>◎スムーズに学習に取り組むことができるように、1時間の学習内容を最初に知らせておく。</li> <li>&lt;支援者との連携&gt;</li> <li>◎5歳時の生活や指導の経過についての資料などをもとに、支援方法を共有する。</li> <li>◎対象児の実態を把握し、校内委員会を通じて支援者や職員と支援方法を共通にするとともに、密に連絡を取り合い、より適切な支援方法を見出していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・通所機関と就学に関する情報や見通しを伝え合い、共有する。</li> <li>・特別な支援の有無にかかわらず、希望する保護者と専門家とのグループ相談を設定し、就学に際しての保護者の不安や、専門家の立場からの就学前に大切にすることなどを話し合えるようにする。</li> <li>・対象児の就学先と話し合う機会をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現活動や儀式的な行事の際の、対象児の特性に応じた支援方法や、参加の仕方などに対する助言を受ける。</li> <li>・就学支援シート（就学先との連携のための書類）に関して協議し、作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学前教育施設や療育施設から、対象児についての情報を得て、指導計画に生かす。</li> <li>・巡回指導では、担当の職員から対象児の様子について話を聞き、指導に生かしていく。</li> <li>・特別支援学校の教員やカウンセラーとの連携を密に図り、実態を共有するとともに、特性に応じた支援方法を具体的に協議する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児が成長するとともに、保護者の願いや要望が急に強くなってくることがある。思いは十分に受け止めながら、園での姿や見通しを伝え、対象児にとって大切なことを話し合い、共通理解を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児の成長を共に喜び、これまでの保護者の努力や苦勞に対し、敬意やねぎらいを伝えていく。保育者や周囲の幼児が対象児と共に学んだこと、うれしかったことなどを具体的に伝え、対象児の存在の大切さを共感する。</li> <li>・就学支援シートを、話し合いながら作成する。</li> <li>・就学先の特別支援教育コーディネーターなど、相談できる人を具体的に知らせ、安心感ももてるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;春季休業中&gt;</li> <li>・入学前に保護者と面談を行い、入学式の座席や動きの確認を対象児と共に行う。</li> <li>&lt;入学後&gt;</li> <li>・できるだけ早い段階で連絡を取り、保護者の不安を受け止める。家庭での様子や聞き、児童の実態について保護者と共有し、具体的な支援を個別指導計画に反映させる。</li> </ul>